

特集
3

組合で取り組むSDGs

令和3年度第3号の本誌でもご紹介しましたが、SDGsは、「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月、ニューヨークの国連本部で行われた国連サミットで採択された、国連加盟193カ国が達成を目指す2016年から2030年までの国際目標です。

組合で取り組む事業にはSDGsにつながるものが多くあります。今回は、SDGsに取り組む全国の組合の事例をご紹介します。



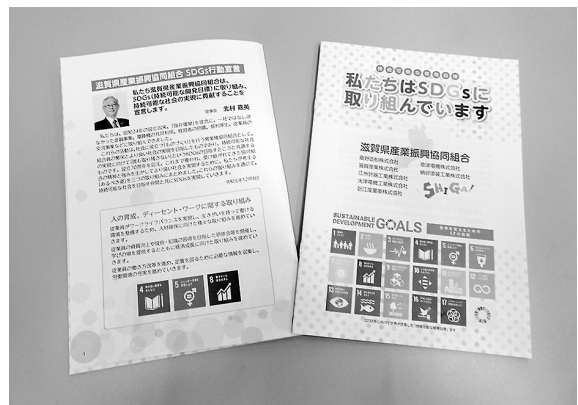
滋賀県産業振興協同組合（滋賀県） SDGs行動宣言を策定

【背景・経緯】

組合では、時代の変遷とともに事業の停滞が課題となり、新たな事業展開を模索していた。そこでこれまで培ってきた組合の強み・弱みを洗い出し、今後の新規事業創出の材料とするため、知的資産経営報告書を作成。その活動の延長として、今後の活動目標の指針となる「SDGs行動宣言」を発行した。

【取組みの内容】

令和元年に創立70周年の節目を迎え、これまで受け継がれてきた協同組合の精神と強みを生かし、SDGsへの取組みを組合事業の方向性として定めて、活動を推進することとした。組合では「人の育成・労働環境の充実」、「ものづくり企業としての技術革新や環境に優しい生産活動の推進」、「社会貢献も含めた地域・社会との関わりの深化」の3つの柱を新たな共同事業のコンセプトとし、「SDGs行動宣言」の形で組合内外に基本姿勢を公表。展示会での活用や、大手取引先からのSDGsに準拠した取組み要請にも応えることができ、組合を通じた社会課題への対応に貢献している。



組合で作成したSDGs啓発パンフレット

展示会での活用や、大手取引先からのSDGsに準拠した取組み要請にも応えることができ、組合を通じた社会課題への対応に貢献している。

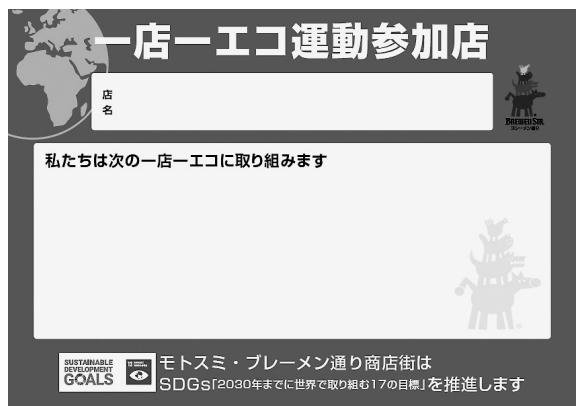
モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合（神奈川県） 継続してきた環境活動への取り組み

【背景・経緯】

組合では、ドイツのブレーメン市の商店街と友好締結を結んだことを契機に、環境基準がとてもしつこいドイツの商店街を参考に、環境活動への取組みを強化してきた。資源物回収やマイバッグ持参を推奨する活動に加え、平成15年からは組合員が環境に配慮した取組みを行う「一店一エコ運動」を継続してきた。組合の各種事業をSDGsに当てはめたところ11の目標に該当する結果となった。

【取組みの内容】

地元の小学校と連携して早いうちから商店街と触れ合い、環境活動について大人も子供も互いに考える機会を作っている。「一店一エコ運動」では、組合員が店頭ステッカーを貼り、過剰包装の抑制、節電・節水など各店が取り組む内容を記載している。また、運動が一過性のものにならないよう、地元の小学生が組合員店舗を回って環境活動への取組みを聞く「エコ調査隊」事業も行っている。昨今はSDGsが身近なものになって子供たちの環境意識も高くなり、鋭い質問を投げかけられることもあり、組合員にとって良い刺激となっている。今年度は、神奈川県で実施する「かながわSDGsパートナー制度」にも登録。地域コミュニティの担い手として、また、世代を超えて親しまれる商店街として、今後もSDGsに積極的に取り組んでいく。



組合で作成した一店一エコ運動のステッカー